

## 第22回東日本事例研究オンライン研修会 発表概要シート

法人名	大和ハウスライフサポート株式会社	施設名	ネオ・サミット湯河原
発表タイトル	S様の排便コントロールにより生活リズムを整える ～自然排便を目指して～		
研究の目的	排便障害とは便失禁や便秘など、排便に関連した様々な障害を指すが、当施設においても日々のケアの中で大きな問題となっていた。今回対象としたS様は認知機能の低下によりトイレの場所が分からない、排便後の後始末が難しいなどの中核症状が見られていた。また、便秘症による下剤使用で、夜間の便意からトイレへの起き出しが頻回になる睡眠の妨げや、紙パンツ内での便汚染から皮膚トラブルも弊害となっていた。これらの改善の為にS様への薬に頼らない自然排便を目指した取り組みを報告する。		
発表の概要	①施設概要 ②対象者紹介 ③取り組み内容 ④取り組み結果 ⑤考察		
研究方法	対象期間は令和3年6月28日から同年9月30日である。研究開始にあたり介護職員と看護職員でカンファレンスを開催し、その内容を主治医へ報告し了解を得た。そして、①食物繊維の摂取②腹部のマッサージ③水分摂取強化④トイレ誘導へのこまめな声掛け、以上4点について取り組みを実施した。		
成果・結果	取り組み前後で夜間帯の排便回数が9回から2回へ減少し、睡眠時間を確保できるようになった。夜間帯の便失禁回数も7回から1回に減少し皮膚トラブルも軽減した。運動量増加をねらい体操への参加率も上がり、好みに合わせた水分を取り入れたことから1日の平均水分摂取量も778mlから907mlに増加した。当初目標の下剤を使用しないというところまでは到達出来なかったが、徐々に便失禁回数を減らすことが出来た。		
考察	今回の事例研究は排便について行ったが、その過程で行った運動や水分摂取強化、トイレに関するこまめな声掛けなど、統一したチームケアを行うことでご入居者の生活改善につながることを再認識することが出来た。		
アピールポイント 伝えたいこと	今事例は「排便」に着目した内容ですが、取り組みの中で「食事・睡眠・運動」など日常生活の過ごし方に密接に関わっていることが分かりました。日々の過ごし方の見直しや検討はS様や当事業所に限ったことではなく、広く活用できる内容だと考えます。		